

第6期音更町総合計画の方向性

【追加資料】

令和2年8月作成

1 令和2年度第1回総合計画審議会における委員からの意見に対する対応について

発言者	事項	委員からの意見	事務局(審議会での回答)	対応方針
委員	まちの将来像	まちの将来像について、今回の総合計画は、SDGsとの結び付きを意識した内容になっているが、SDGsでは「誰一人取り残さない」というキーワードがある。まちの将来像にも「誰一人取り残さない」というような姿勢や精神などが盛り込まれると良い。	3つの案を用意させていただいたが、「多様性が育む選ばれるまちおとふけ」の多様性や「住みたいと選ばれる持続可能なまちおとふけ」の持続可能というのは、SDGsの理念でもあり、そういった言葉も取り入れて案とした。ご意見も参考にさせていただいて、将来像を設定していきたい。	「誰一人取り残さない」については、多様性(を包摂する)の中に含まれていると理解している。将来像の案とその説明については、3 まちの将来像についてのとおりである。
	計画の体系	新たな分野として「共生社会」が新設されているが、「多様性」はいいアイデアと思う。計画づくりにおいては、性的マイノリティ、LGBTにも配慮し、こうしたテーマもこの分野に入るという理解で良いか。	「共生社会」は現計画の分野にある「アイヌの人たちの福祉」、「男女共同参画」を包含するものであり、また、多様性も包含することから、LGBTなども多様性ということで、共生社会に含むものとして今のところは考えている。	「共生社会」は、現計画の「男女共同参画」分野を発展させたものであり、すべての人が生きやすい多様性を包摂したまちをめざすスタートラインとしたい。現計画の「アイヌの人たちの福祉」分野にあった施策は、その内容を検討し、「共生社会」、「芸術・文化」、「地域福祉」などの分野に適宜、配置することを考えている。
	基本目標	アイヌの人たちについては、福祉分野だけではなく、その文化についても音更のまちづくりに取り入れるべきと思う。「共生社会」にアイヌ文化を含めてはどうか。	「アイヌ文化」については現計画にも施策がある。次期計画は基本的に現計画を踏襲するという考えで作成を進めており、次期計画においてもこうした考えが入るものと考えている。	
委員	音更町の地域特性	地理的条件と沿革・歴史に触れているだけで地域特性の説明としては少々物足りないのではないか。例えば産業特性などの記述があっても良いのではないか。	現計画では町の現状について産業の記述があるが、その後にある町の課題においても同様の記述があり、内容が重複していたところもあったことから、次期計画では計画全体のボリュームなども考慮し、音更町の課題(p.12)において、町の現状と合わせてまとめたものである。	総合計画本体では、詳細データを掲載することはできないが、音更の現状についての資料は別途整理する予定である。また、代表的な特性を示す図表などを適宜、掲載することを考えている。
	基本目標	計画策定にあたっては、農業や観光を軸とした積極的な6次産業化対策を推進するべきではないか。	直接的に6次産業化との記載はないが、基本目標 1)経済の好循環でつくる元気あふれるまち(p.21)の中で、「～他産業と連携して多様な地域資源を活用した商品・サービスを開発～」(上から2行目)、「～農林業、商業、工業、観光などのさまざまな関係者が他産業と連携して、新たな付加価値を地域にもたらす商品・サービスの創出をめざす」(下から3行目)と記述しており、町としても推進するべきことと考えている。	左記のとおりであり、6次産業化については、これまでも関係機関も含めて取り組んできたところであり、今後も継続して取り組んでいく。
	基本目標	現在、新型コロナウイルス感染症が世界的な問題となっている。これからの計画づくりにおいては、異常気象、気候変動、ウイルスなどの感染対策について、あらかじめ想定した計画とすべきではないか。	町としても自然災害や感染症などへのリスク対応は重要なことと考えており、音更町の課題 2)自然環境と生活の基盤(p.12)の中で「～世界的な感染症の流行～災害などに強いまちづくりを推進する必要があります～」(2行目後段から)と記述し、課題に対応する形で、基本目標 2)都市と自然が共生する持続可能な住みたいまち(p.22)では、「近年の自然災害や世界的な感染症の発生などをふまえ、さまざまなリスクに対応可能なまちづくりを～計画的に行っていきます。」(下から3行目)と記述しているところである。計画書の中でどの程度踏み込んだ記述が必要なのかは、基本計画の各分野における対応も踏まえて検討していきたい。	左記のとおりであるが、基本計画を検討していく中で、リスク対応全般をどう位置づけていくのか決めていきたい。既存の分野、施策に必要な事項を追加することを基本とするが、新しい枠組みも考えられる。
	基本目標	町内会活動が縮小してきている。総合計画を実行に移す際は、職員が町内会に出向いて助言・指導を行って進めてほしい。町内会の会議に役場職員が出席していただければいいと思う。年に1回でもいいので、総会や役員会に参加してもらい意見を交わしてほしい。	町内会活動に対する支援については広報聴講を窓口として、町内会の加入促進や活動に対する報償など、様々な取り組みを行っている。このことについては継続して支援を行いながら更なる充実を図っていきたい。意見交換については、連合町内会単位で懇談会なども行っており、お声掛けいただければ対応したい。	意見交換については、連合町内会単位での懇談会に加え、単位町内会との懇談などの機会を持つなど、対応したいと考えている。このことについては、町内会長会議などで説明していきたい。

発言者	事項	委員からの意見	事務局(審議会での回答)	対応方針
委員	まちの将来像	将来像の3番目に「大地に広がる」という表現があるが、これはどういう意味合いか。あまり中身の無い表現のように感じる。例えば「支え合う」など協働につながる具体的な文言を入れてはどうか。他の2案は具体的。	現計画で「豊かな大地」と言っているが、大地というのは、いわゆる農業基盤のことを指し、以前から表現している。文言や表現については、貴重なご意見として参考にしたい。	将来像の案とその説明については、3 まちの将来像についてのとおりである。
	音更町の課題	「商業」の文章(p.12)について、「商業は、音更本町から木野までの国道沿いに～商業ゾーンを形成しています」(上から5行目)とあるが、あたかも音更本町から木野まで連続して商業ゾーンが形成されているかのような印象を受ける。実際は2つのゾーンが存在し、このゾーンを今後どのように融合させていくかが課題の一つではないか。 新型コロナウイルス感染症の影響で、今後はこれまでのような状態は望めない。p.22には「また、近年～」と感染症に触れているが、ここをもう少ししっかりと話し合い、これからのウィズコロナの時代を踏まえ関連する分野など町として具体的に示してほしい。	元々、音更市街、木野市街があり、その中間にショッピングセンターができてきて国道沿いを中心に商業施設が立地してきたということが今までの経緯であるが、ご指摘のとおり、まだつながっていない部分があるので、そういったことが今後とも必要だということ意見として承りたい。	現状では、音更本町から木野までの間には、市街化調整区域として開発行為及び建築行為などが制限されている箇所があることから、左記のとおり意見として承りたい。
委員	基本目標		まちづくりの基本的な方向性を示すものが基本構想であることから、「～計画的に行っていきます。」と記載しているが、この問題は計画の体系の中であらゆる分野に影響が及ぶことから、いただいたご意見を参考に、関連する分野も含め基本計画の内容を決めていく中で、検討していきたい。	野久委員への対応方針のとおり、基本計画を検討していく中で、リスク対応全般をどう位置づけていくのか決めていきたい。

2 基本構想の文言修正について

(1) 事務局による修正

10ページ 2計画の背景 - (1)本町を取り巻く社会の動向 - 4)安全・安心の確保とワーク・ライフ・バランスの実現・・・9行目

【原文】

～社会保障制度の充実と国土の強靱化、ICT環境の整備～



【修正文】

～社会保障制度の充実と国土の強靱化、**感染症対策**、ICT環境の整備～

3 まちの将来像について

(1)「多様性が育む 選ばれるまち おとふけ」

多様性	①持続可能性の条件であり、また、多様性の包摂が一人ひとりの人権を尊重し、誰一人取り残さないことを意味し、SDGsの理念に対応している。 ②全5章に多様性が位置づけられている。「2」都市と自然が「…」には、多様という言葉はないが、そもそも自然、持続可能は多様性を前提としたものである。
育む	まだ、実現していないが、今後、多様性を包摂した誰にも住みよいまちとしていき、多様性を強みとしていくという思いが込められている。
選ばれる	人口対策の目標を示している。

(2)「住みたいと選ばれる 持続可能なまち おとふけ」

住みたいと選ばれる	あらゆる面で魅力的なまちとなるという思いを表しており、人口対策の目標を示している。
持続可能	SDGsの理念の柱である。今も将来も、等しく豊かさを求めることができることを示している。

(3)「大地に広がる 協働のまち おとふけ」

大地	音更町発展の基礎であり、町の基幹産業である農業の象徴。また、ふるさと音更を示している。
協働	複数の主体が何らかの目標を共有し、ともに力をあわせて活動すること。人口が減少していくなかで、みんなが幸福に暮らせるまちを創っていくために必要。

※審議会等で出された言葉

支えあう	協働の意味合いを含むが、文字通り、支えあいであり、互助的な意味合いが強い。
誰一人取り残さない	SDGsの理念の柱である。すべての人の人権が守られる公正さが保たれていることを示している。
笑顔	「笑顔」はSDGsの17のゴール、そして基本目標が実現された音更を象徴する言葉として位置づけている。音更の人口を維持していくためには、大地(=音更)での暮らしが幸福(=笑顔)なものでなければならない。[5期総の将来像「豊かな大地に広がる笑顔 今も未来も住み続けたいまち おとふけ」から]

※置き換え可能なキーワード

持続可能	永久(とわ)に続く 永久(とわ)に輝く
協働	みんなで作る 支えあう
誰一人	みんな 全員

※上記キーワードでつくる将来像(例)

(1)	多様性が育む みんなでつくるまち おとふけ	多様性が育む 選ばれる協働のまち おとふけ
(2)	協働で 永久(とわ)に輝くまち おとふけ	永久(とわ)に輝く 支えあいのまち おとふけ
(3)	大地に広がる 支えあいのまち おとふけ	大地に広がる笑顔 支えあうまち おとふけ

4 計画の体系の変更について(事務局からの提案)

- (1) 基本目標「健やかで心ふれあう、やさしさに満ちたまち」における「低所得者福祉」分野については、低所得者支援を北海道や社会福祉協議会、民生委員などとともに連携をはかりながら進めていることから、地域で共通して取り組んでいる課題のため「地域福祉」分野に包含させる。
- (2) 基本目標「みんなが参加できる協働のしくみでつくるまち」における「国際・地域間交流」分野に移住・定住、関係人口施策を位置づける関係から、分野タイトルを「交流、移住・定住」に変更する。

5 計画の体系

章 (基本目標)	旧節 ⇒ 分野 (5期総)	総合戦略	地域福祉	SDGs 目標
経済の好循環でつくる元気あふれるまち	<ul style="list-style-type: none"> ■ 農業[経営] ■ 農業[生産基盤や生産環境] ■ 林業 ■ 商業 ■ 工業、企業誘致 ■ 観光 ■ 産業連携 ■ 勤労者の保護 			
都市と自然が共生する持続可能な住みたいまち	<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境保全 ■ 景観 ■ ごみ・し尿収集処理 ■ 公共交通 ■ 情報通信 ■ 消防・防災 ■ 交通安全・防犯 ■ 道路 ■ 河川 ■ 公園・緑地 ■ 火葬場・霊園・合同納骨塚 ■ 住宅・宅地 ■ 地籍調査 ■ 水道 ■ 下水道・排水処理 			
生きる力、支える力を育むまち	<ul style="list-style-type: none"> ■ 幼児教育 ■ 義務教育 ■ 高校教育・高等教育 ■ 青少年健全育成 ■ 生涯学習 (の体制づくり) ■ 社会教育 ■ スポーツ ■ 芸術、文化 			
健やかで心ふれあう、やさしさに満ちたまち	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域福祉 ■ 保健 ■ 医療 ■ 社会保障 ■ 子ども福祉 ■ 高齢者福祉 ■ 障がい者福祉 			

近年求められている働き方改革、SDGs の理念を反映させるという意味で「保護」とした

体制づくりは削除していいのではないか

ひとり親家庭等の福祉を包含

	<ul style="list-style-type: none"> ■ 低所得者福祉 ■ <u>共生社会</u> ■ 消費者保護 	<p>「低所得者福祉」は、「地域福祉」に包含する。</p> <p>5期にあった「アイヌの人たちの福祉」、「男女共同参画」はここに包含する。また、共生社会は多様性、ダイバーシティも包含している。</p>
<p>みんなが参加できる協働のしくみでつくるまち</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ コミュニティ ■ 町民参加 ■ 広報・広聴・情報公開 ■ 交流、移住・定住 ■ 行政運営 ■ 財政運営 ■ 広域行政 	<p>5期では経済分野(1章)に配置していたが、安全安心な暮らしという視点から移動した。</p> <p>「国際・地域間交流」分野に移住・定住、関係人口に関する施策を配置するため、分野タイトルを変更する。</p>

計画の体系 + 総合戦略 + 地域福祉 (SDGsアイコンは基本計画下に付与)